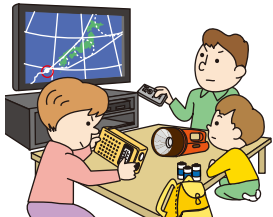


避難の心得

避難のポイント

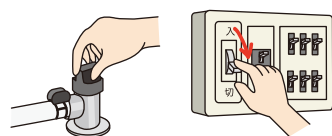
正確な情報の入手

テレビ・ラジオで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。また土砂災害警戒区域を避けるようにしましょう。



非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



徒歩での避難が基本

車での移動は緊急車両の通行のさまたげになります。また浸水すると車が動けなくなりますので、特別な場合を除き、徒歩で避難しましょう。



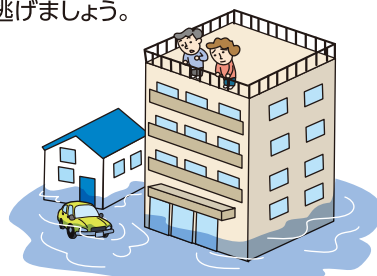
要配慮者への協力

お年寄りや子供などは早めの避難が必要です。近所のお年寄りが避難する場合には、協力しましょう。



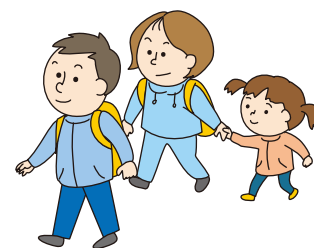
万が一、逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



動きやすい服装での避難を

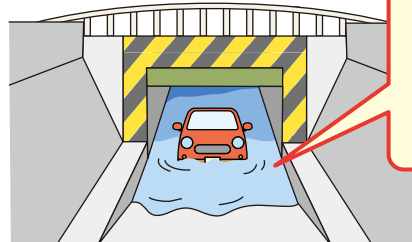
避難するときは、動きやすい服装で2人以上での避難を心がけましょう。



大雨の際の危険箇所

地下道(アンダーパス)

鉄道の下など路面が低くなっているところは、水がたまる恐れがあるので、車で入らないようにしましょう。浸水・冠水の危険を感じたら、速やかに車を高台に移動させましょう。



車両の場合、**約30cm以下の冠水で走行困難になる場合があります。**



「避難」とは「難」を「避」けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。



避難先は小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

※緊急時に身を寄せる避難先は、市町村が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

避難行動は、下の4つが考えられます。

1 行政が指定した避難場所への避難



自ら携行するもの
●マスク
●消毒液
●体温計
●スリッパ等

2 安全な親戚・知人宅への避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。



3 安全なホテル・旅館への避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。



4 屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認する必要があります。

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。



「3つの条件」が確認できれば
浸水の危険があっても自宅に留まり
安全を確保することも可能です

- 1 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
- 2 浸水深より居室は高い
- 3 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

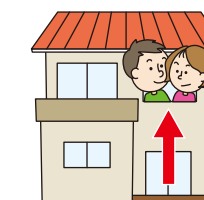
浸水時の水平避難と垂直避難

風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。

そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い救助を待つという判断も必要です。



避難所への避難(水平避難)



高所への避難(垂直避難)